

7-3 車が通行することで、堤防本来の治水機能を低下させることに繋がるのは心配

- 堤防道路は便利だが、治水上の問題に繋がる心配(18)
- 堤防道路を拡幅すれば、大雨時にも壊れる恐れが少なくなる(6)
- 車の走行に耐えられるよう、堤防を強化すべき(3)
- 大型車の通行による堤防の空洞化が心配なので、調査を行うべき
- 堤防が損壊するのを防ぐため、堤防道路への車の流入を規制すべき
- 道幅が狭く舗装が損壊しやすいため、大型車の流入を規制すべき

7-4 車の利便性よりも、自然環境の保全を優先して考えるべき

- 堤防道路は走りやすくて便利だが、自然破壊が心配(5)
- 車の利便性より、自然環境の保全を優先すべき(2)

7-5 車の騒音への対策を施すべき

- 騒音対策のため、河川敷に道路を通すべき
- 騒音対策のため、大型車の流入を時間規制すべき

7-6 河川敷の空間利用に応じて、堤防道路の使い方を考えるべき

- 河川空間へ安全にアクセスできるよう、堤防道路への車の流入を規制すべき(5)
- 堤防道路の充実よりも河川敷の有効利用を図るべき(3)
- 河川敷利用との調和を考えた利用形態とすべき(2)
- 歴史的価値の高いところへの車の流入は規制すべき

7-7 車の通行はやはり便利。より使いやすくなると良い。

- 堤防道路の走行性改善のため、ガードレールを

設置、車道を拡幅、信号の削除などをすべき(18)

- 堤防道路はとても便利なので、多少他のことに目をつむっても、車の利便性を優先すべき。(12)
- 今後も車が走行できるよう道路として整備すべき(11)
- 平面交差を立体化し、走行性を改善すべき(8)
- 堤防道路は便利。非常時の避難用にも有効なのではないか(7)
- 信号がないため走りやすい(5)
- 橋の架け替えや堤防の工事で走れないと困る(4)
- 堤防道路は走りやすいが、落ちそうで怖い(4)
- 市内の交通渋滞緩和のために堤防道路を活用すべき(3)
- 河川敷に遊びに行くのに堤防道路は便利
- 景色を眺めて楽しめるよう、退避所があるとよい
- 洪水時にも安全に通れる道路に改善すべき
- 砂埃が立たないように、堤防道路を適切に舗装すべき
- 照明設備を整え、堤防道路の走行性を改善すべき
- 多くの橋を設置をするなどして、堤防道路の走行性をより良くすべき

7-8 地域全体の道路交通問題として対処すべき

- 環状2号の開通を急ぐべき
- 国道302号を早く整備すべき
- 大型車が市内を走ると排ガスが問題。大型車規制はすべきでない
- 地域の交通状態を鑑み、適切な処置をすべき

8 河川空間をどのように利用、管理していくべきか？

8-1 遊んだり、憩える空間として利用できるようにすべき

- 河川敷でくつろげるように(4)
- サイクリングロードや散歩道のネットワーク化を図るべき(4)
- 水と親しめる空間があると良い(2)
- 川に気軽に遊びに行けるよう、駐車スペースやトイレ、水道があると便利(2)
- 川に近づきやすく、川沿いで憩える空間となると良い(2)
- 河川敷で子供が遊べるスペースがあると良い
- 河川敷でゴルフがしやすいようにすべき

8-2 災害時にも活用できる工夫が必要

- 遊ぶための場だけでなく、災害時にも有効に使えるような工夫が必要

8-3 付近の住民が利用しやすい河川敷に

- 住民が利用しやすい河川敷に(8)

8-4 自然を残すことが大事

- 自然を残し、人為的な整備は避けるべき(5)
- 一貫して自然の多い河川空間とすることが望ましい
- 生物が棲みよい環境にすべき

8-5 ゴミ対策や雑草対策を講じるべき

- 皆がゴミを捨てないような対策を講じるべき(8)
- 河川敷の下草の管理が場所によってまちまちで困る(2)
- 車からのゴミ捨てを防ぐため、草刈りを行う頻度を増やすべき
- 子供が安全に遊べるように草を刈るような管理が大事

8-6 河川空間を利用しやすくなるような情報提供が重要

- 河川敷にどうアクセスすればよいか行き方や駐車場利用の仕方がよく分からない(3)
- 河川空間でのイベントや歴史的情報などが入手しやすいと便利(2)
- 河川敷の清掃等の活動に関する情報の普及を促進